



## タイ、インラック・シナワトラ首相 メッセージ



「ブッダがサルナートの修行者が集う場所で後に弟子となる 5 人の修行者に最初の説教をした時、仏教の基本原理が明確な形で宣言された、ということ  
は広く知られています。その時、ブッダは中道、八正道を初めてお示しにな  
られました。

社会の発展も環境の開発も、仏教の道德律に従い、仏教の基本原理に従って進めていかねば  
なりません。すなわち、中道、八正道に基づいて開発のための正しい意見を持ち、正しい知  
識を持ち、開発を正しく理解し、正しく見、正しく考え、正しく決定しなければなりません。  
それは、正しく努力し、正しく心配りを行い、正しく集中するという事です。これらは、  
常に教え込まれ、蓄積され、自らに教えていく必要がある智慧と集中のまず最初のもので  
す。もし人がより多くの智慧を持ち、より多くの集中ができるようになれば、その行動と活動だ  
けでなく、その身体による表現もことばによる表現も適切なものとなり、自分自身にとっ  
てだけでなく社会や人々にとっても大きな恩恵をもたらすこととなります。というのも、その  
ような人は、仏教の道德規範の中にある正しく話し、正しく振る舞い、正しく生きるとい  
うことを実践しているからなのです。中道により開発・発展を行うことは全体的に開発・発展  
させることになる、と考えることができます。なぜなら、中道は生きることの様々な側面を  
分離することも極端に走ることもなく融合させるからです。中道は、私たちが今日<sup>こんにち</sup>直面して  
いる様々な社会的危機や環境的危機に対処していくうえで最も適切なものなのです。」

## 第十回ウェーサクの日祝辞

半田孝淳 天台宗座主



仏陀の神聖なる三日間を慶祝する第十回ウェーサクの日祝賀式典及び国際仏教徒会議が開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

今回の祝賀式典は、タイ仏教僧団最高位のサムデット・プラ・ニャナサンバラ大僧正の百歳のお誕生日と、十回の節目を祝うためにタイ王国とマハチュラロンコーンビジャウィタヤライ大学の主催によりバンコクの国連会議場にて開かれるとお聞きしておりますことに、改めてお祝いを申し上げます。

さて、今回のテーマは「教育と国際社会の一員としての意識：仏教的考え方」とのことです。

世界には貧困によって教育の機会を奪われた子ども達がたくさんおります。私は、この現実を深く悲しむものであります。教育によって人は世界を知り、自らの尊厳を保つことができるからであります。仏教徒はこのような現実を一日も早く改善するために力を尽くすべきであります。

更に、交通機関の発達、また通信手段の格段の進歩により、私たちは瞬時に情報を共有し、交流をしております。その意味では、みなが地球市民であるといってもよいと存じます。地球市民の定義は種々あるとは存じますが、私は「みなが平和に共存できることに同意した人々」であると思っております。

しかしながら、現実のいくつかの国家は「核兵器」という力を誇示しております。それは容易に地球の終末を予測させます。地球上の人々は、誰もそんなことを望んではいないにも拘わらずです。

私たち仏教徒が未来への展望を語る時、少なくとも「地球が崩壊するかもしれない危険」を次世代の人々に手渡すべきではないと存じます。

釈尊が生きられた時代の社会は小さいものでした。それがしだいに巨大化し、国家を形成し現在に至っております。ここで重要なことは「助け合って共に生きる」ということでありましょう。

その根本は仏教の「慈悲」であります。私たち仏教徒が「助け合って共に生きる」ことを実践することで、今世界で起きている国家エゴやテロリズムに自浄をうながすことができると信じます。

本日の式典が仏陀の叡智を世界に知らしめてゆくものになることを念願して、お祝いの言葉といたします。

半田孝淳 天台宗座主

## 国連ウーサクの日というめでたい日への メッセージ



ウーサクの日は、非常に重要な日です。ウーサクの日は、ブッダがお生まれになり、悟りを達成され、そして入滅された日ですから、この日は仏教徒にとってブッダご自身と同様に重要です。それは陰暦6月の満月の日です。すべての仏教徒がこの日への深い絆を感じ、みなが一つにまとまって特別にブッダを祝います。ウーサクの日を特別に祝うのは、ブッダが、悟りを達成されこの世界に平和に満ちた幸福と温情をもたらされたからです。ブッダはダルマを悟られました。そして、ダルマは、苦しみと激情の対極をなすものを、つまり人類が必要とする幸福と大いなる温情を生み出してくれる最も貴重な遺産です。ダルマは、素晴らしいものをもたらしてくれる貴重な遺産なのです。

タイ国では、ダルマを非常に深く理解する賢い祖先達がおられましたので、私達はその遺産を受け継ぎ、それが今日まで私達に幸福と温情をもたらしてくれております。

国連は世界中に広まった仏教の重要性を認識し、1999年12月15日以来、ウーサクの日を国際デーとすることで意見が一致しています。世界は、ウーサクの日を受け取り、そして同時に幸福と温情を受け取りました。それゆえ、私達は陰暦6月の満月の日と一緒に集まって祝うのです。

この2013年ウーサクの日に、タイ国政府は、瞑想の実践とダルマの普及を推進するための予算を与えて下さいました。これは、意義深いウーサクの日に対する最高の敬意の表明です。今年は、ウーサクの日のお祝いに加えて、タイ国大僧正のソムデット・プラ・ニャナサンバラ聖下の100回目の誕生日も祝われます。

マハチュラロンコーンビジャウィタヤライ大学は、タイ国でこの行事を祝っていただくべく世界中の仏教指導者を招待する、という栄誉を授かっています。この行事の組織・運営は、最高サンガ評議会の承認の下に適切に行われるべき非常に重要なものである、とみなされております。この目的を適えるために組織委員会が設立されております。

私は、ウーサクの日の重要性を認めて下さる政府に感謝し、またこのウーサク国際デーという非常に栄誉ある式典に参加されているすべての団体と人々に感謝致します。

ソムデット・プラ・ブッタチャー  
大僧正執行委員会委員長

第10回国連ウエーサクの日祝賀式典メッセージ  
国連アジア太平洋センター  
叡南覚範



私達仏教徒は、今ここに第10回国連ウエーサクの日を迎え、祝賀式典を催すべく国連会議場に参集し、至福の時を教示しておりますことを心より感謝申し上げます。また此の度は、タイ国の仏教僧団の最高位でありますサムデット・プラ・ニャナサンバラ大僧正 100歳の誕生日をお迎えするという重ねての慶事に対しまして、心よりお祝い申し上げます。

世界に不滅の真理を顕現されましたお釈迦様の神聖なる生誕・成道・涅槃の3つをお祝いするウエーサクの日が、1999年の国連総会に於いて国連の日と認められましたことは、我々仏教徒にとって大いなる喜びであり、誇りであり、将来に向かっての仏教教育への自信と推進をゆるぎないものと確信させてくれております。

釈尊は、此の世に存在する事物・現象・総べて眞實ならざるはなし(諸法実相)と述べられ、現実肯定の真理を悟られ、大覚者となりました。

世界は今以て人為の争いが続き、人間の自然を無視した行為により環境の変化や人間の力を以ては如何ともしがたい自然の猛威に直面しつつも、たゆまざる努力を以て生存維持発展の道を進んでおります。

自然を愛し、自然と共に生きることを認識しつつ人間の存在を謙虚に受け止めることを教え訓された釈尊の精神の輝きは、これから先の世界の教えの場を益々光りあらしめるものとならしめましょう。

第10回を迎えたウエーサク祝賀式の開催に当たり、タイ国政府、マハチュラロンコーンビジャウィタヤライ大学の御尽力により盛大に執り行われますことを衷心より感謝し、御礼申し上げ、祝辞とさせていただきます。

2013年5月21日

叡南覚範

世界連邦日本仏教徒協議会会長  
天台宗 毘沙門堂門跡 大僧正

## 第10回国連ウェーサクの日国際会議および祝賀式典に寄せて

この度は記念すべき第10回目の国連ウェーサクの日国際会議および祝賀式典を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

今年のテーマは「教育と世界市民: 仏教的展望」(Education and Global Citizenship: Buddhist Perspective)



ということですが、産業革命以後、政治、経済、宗教、文化、科学、スポーツなどあらゆる面での国際化が進み、グローバリズムという言葉に象徴されるように現代における人間の活動は良くも悪くも地球規模でのものとなっています。すべてが地球規模でダイナミックに早いスピードで動いています。ある意味で非常に不安定です。個人はそのダイナミズムに巻き込まれて弄ばれ、あたかも大海に浮かぶ小船のようです。しかしながら、そのような不安定化を引き起こしているのも本を糺せば個人です。なぜなら、国家であれ、何らかの集団であれ、すべての組織は個人の集まりだからです。

個人はすべて居住地に従い、村民であったり、町民であったり、市民であったりします。また、国レベルで言えば国民ともいえます。ここまでは誰も意識しています。しかし、上述のようなグローバリズムの時代にあっては世界市民としての意識も求められると思います。不安定な時代であるからこそ、個人は世界市民としての自覚と責任を持って考え、行動しなければなりません。世界が不安定化しないよう、人類皆が平和に暮らせるよう努める必要があります。それは市民としての義務です。一方、市民ですから当然市民としての権利もあるわけです。生存する権利、教育を受ける権利、人間としての尊厳を保障される権利など様々な権利があるはずですが、こういった権利は保護されなければなりません。

当然そういった権利と義務は一体です。誰も自分の権利を保障されるためには他人の権利を保障する義務があるのです。ところが、実際はどうでしょう。私達は利欲に駆られ権利ばかりを主張して義務を疎かにしがちです。たとえ話として、川上の住民が川の水を無秩序に使ったため川の水が汚れ、川下の住民が川の水を使えなくなってしまう、挙句の果てに両者間で諍いが起きる。これなどは川上の住民が川の水を使うという権利ばかりを行使し、川の水質を守る、あるいは川下の住民の権利を保障するという義務を怠ったことが原因です。実はこのようなことが世界規模で起こっているのです。気候変動などもそのよい例といえるでしょう。科学的な検証の余地はあるにせよ、個人レベルから国家レベルまでの利己的で度を過ぎた経済活動が地球規模の気候変動を引き起こしたのではないのでしょうか。

今、私達人類には世界市民としての意識、自覚、規範が求められています。けだし、その教育に仏教が何らかの役割を果たすことができるのではないのでしょうか。仏教的な考え方、仏教的な手法、仏教的な資源を使って人々にそのような教育を施すことができるのではないのでしょうか。今回の会議のテーマの内容

が私の上述の解釈と一致しているかどうか判りませんが、いずれにせよ、有益で実のある議論と結果を期待します。

第 10 回国連ウェーサクの日国際会議および祝賀式典の素晴らしい成果とご成功を祈念いたします。

インナートリップ霊友会インターナショナル副代表  
国連ウェーサクの日国際委員会執行委員会副委員長